

令和3(2021)年度

日本特別活動学会 第8回 実践事例募集事業

## 推奨実践事例

事例番号 8-1

### 小学校6年間で1冊に綴ることができる「6年連用日記」 を活用した児童の自尊感情の醸成

実践テーマ	小学校6年間で1冊に綴ることができる「6年連用日記」を活用した 児童の自尊感情の醸成
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 その他(具体的に、 )
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	<p>I 背景(課題意識)</p> <p>「自己の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う(特別活動 目標より)」ため、以下の視点から、自尊感情を培う効果的な方策を追究したいと考えた。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 特別な配慮を要する児童の自尊感情をよりよく育む方策</li><li>2 自尊感情を児童自らが、自らの心の中に育てる方策</li><li>3 他者との比較でなく、自分自身の成長に目を向け、自尊感情を高める方策</li></ol> <p>II ねらい</p> <p>○小学校6年間で1冊に綴ることができる「6年連用日記」を作成し、教育課程に位置付け実践することにより、以下の視点から、児童が自らの心の中に自尊感情を育むことをねらいとする。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 日記に記された「過去の自分」から「今の自分」を振り返り、自らの成長に気付く。</li><li>2 将来、この日記を読む「未来の自分」から「今の自分」を振り返り、「今の自分」の在り方をより良いものにしようとする。</li><li>3 「今の自分」から1年後、2年後に同じページに日記を記す「未来の自分」に対する希望を育む。</li></ol> <p>III 意義</p> <p>小学校6年間で1冊に綴ることができる「6年連用日記」の実践は、集団性、共同性、社性が強調され、他者をモデルとしたり、他者と比較したりすることで成長を促す教育方法がとられることが多い学校教育において、他者に対する優越性や教師の設定した基準をクリアした完全性に基づく自尊感情ではなく、自分の弱さ、未熟さ、至らなさをも含め自己を受け容れることや自己内の成長の実感により得られる自尊感情を育むことができる。</p>
実践の時期	平成24年4月から現在まで継続的に実践

## 実践事例(概要)

### 1 本実践における自尊感情の捉え方

本実践は、ローゼンバーグ (Rosenberg, 1965) の自尊感情を捉える2つの視点のうち、自分を「これでよい (good enough)」と考える視点を重視した。

### 2 実践方法

(1) 対象 第1学年から第6学年 全校児童

(2) 「日記の時間」の設定

- ・3校時始業前に5分間の「日記の時間」を設定

(3) 書く内容 (基本は自由 以下は例示)

- ・楽しかったこと、がんばったこと
- ・楽しみにしていること、がんばろうと思うこと
- ・前の日記を読んで感じたこと、考えたこと
- ・「未来の) 自分」に向けたメッセージ
- ・先生に聞いてほしいこと、悩んでること など

(4) 実践の検証方法

- ①児童アンケート (6年間日記を付けた6年生100名)
- ②教員アンケート (実践校教員18名)

「6年連用日記」レイアウト  
(1頁の上段・下段に各1日記入)

9月 1日	
2014年(月)1年生	2015年(火)2年生
2016年(水)3年生	2017年(木)4年生
2018年(金)5年生	2019年(月)6年生

  

9月 2日	
2014年(火)1年生	2015年(水)2年生
2016年(木)3年生	2017年(金)4年生
2018年(土)5年生	2019年(日)6年生

### 3 「6年連用日記」による日記指導の実践 従来の一般的な日記指導との比較

	「6年間連用日記」による日記指導	従来の一般的な日記指導
教育課程上の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらい、意義、取組方法は、全教職員で共通理解され、学校の特色ある教育活動として位置付ける。</li> <li>・教育課程上、特別活動の学級活動に位置付ける。</li> <li>・児童、保護者ともねらい、意義、取組方法を共有し、児童自ら小学校生活の「宝物」をつくる意識で取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施するか否か、ねらい等は、学級担任、学年の教師団の任意による。</li> <li>・教育課程上の位置付けは、国語科の学習補完の場合は、国語科。長期休業中の課題や学級経営上の手法として実施される場合は、教育課程上の位置付けが明確になされていないことが多い。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「これでよい good enough」(ローゼンバーグ)の自尊感情の醸成</li> <li>・自分の弱さ、未熟さ、至らなさも含め、自己を受け容れることや自己内の成長の実感により得られる自尊感情を育むこと。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 国語科の学習を補完する学習活動</li> <li>② 夏休み等の長期休業中の生活記録 日々の記録及び規則正しい生活など生活指導的なねらい。</li> <li>③ 学級経営上の手法 児童理解、いじめや心の悩みの発見</li> </ol>
日記の様式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施校特製の日記帳</li> <li>・小学校6年間を1冊の日記帳に綴る。</li> <li>・年度形式(4月1日に始まり、3月31日に終わる)</li> <li>・A4サイズの日記帳1ページに2日分記入できる。</li> </ul>	<p>ねらい①③の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任が作成し、1日分を1枚の用紙に記入する形式が多い。</li> </ul> <p>ねらい②の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材会社が販売するものを活用することが多い。</li> </ul>
取組方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3校時開始前に毎日5分間の「日記の時間」を設ける。</li> <li>・書く意欲を重視し、誤字脱字や文法上の誤りの指摘や既習漢字の使用を促す指導は、最低限とする。</li> <li>・児童自身のために取り組む意識を重視し、教師は、必ずしも全員に毎日コメントを書くことが必須ではない。</li> <li>・日記に記された対応が必要な内容には、適切な支援を行う。</li> </ul>	<p>ねらい①③の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間、帰りの会、宿題として取り組ませる。</li> <li>・教師は、ねらいに応じ指導を行う。</li> <li>・実施期間は、担任の任意による。</li> </ul> <p>ねらい②の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業明けに担任に提出させる。</li> <li>・教師は、押印、または、最終日にコメントを記入し、確認した旨を示す。</li> </ul>



児童にとっての意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日分の書く分量に限りがあり、児童の書く負担感が少ない。</li> <li>・既習漢字の使用、誤字脱字の訂正等の指導を受けるストレスはない。</li> <li>・2年目以降は、日記を書くたびに、これまでの同日に記した「過去の自分」に再会することができる楽しみが生まれる。</li> <li>・日記に記された「過去の自分」から「今の自分」を振り返り、他者との比較でない「今の自分」の成長を実感し、自尊感情を育むことができる。</li> <li>・「来年、〇年生になったときには、この日にどんなことを書いているだろう。」と「未来の自分」の姿を想像し、希望をもてる。</li> <li>・1年後、2年後・・・に日記を読み返すことが意識され、肯定的な自分の姿に積極的に視点を向け、書こうとする。</li> <li>・6年間の日々の日記は、1冊にまとまった小学校生活すべての記録であり、児童自身はもちろん、家族にとっても貴重な宝物となる。</li> </ul>	<p>ねらい①の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤字脱字や文法上の誤りが直されたり、既習漢字を使うように促されたりし、児童にとって“学習色”が強い。</li> <li>・自分の書いた日記自体に愛着をもつことは少ない。</li> <li>・取組の効果について、検証されることはほばない。</li> </ul> <p>ねらい②の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に「何のために書くのか」を知らされることはなく、“やらされている感”を強く、長期休業中の生活記録としても意義を感じる事が少ない。</li> </ul> <p>ねらい③の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と個別的なつながりを感じる場合、児童のとっても有意義なものとなる。</li> <li>・一方、そのようなつながりが感じられない児童にとっては、書く意味が見いだせず、“やらされている感”が強くなる。</li> </ul>
-----------	---	--

#### 4 「6年連用日記」の有用性の検証(一部のデータのみ提示)

##### (1) 児童アンケート(抜粋)

問1 「6年連用日記」をつけて良かったと思うか否か

とても思う	思う	あまり思わない	思わない
39.0%	52.0%	9.0%	0.0%
91.0%		9.0%	

問2 日記をつけてよかったと思う理由

6年間の思い出になったから	83.3%
前の学年で書いたことを見るのが楽しかったから	76.7%
日記を書いて自分の成長を感じられたから	67.8%
学校の伝統だと思うから	61.1%
下級生にも続けてほしいと思うから	61.1%
大人になっても宝物のようになるから	55.6%
前の学年で書いたことを見ると元気が出る時があったから	47.8%
日記を書くことでポジティブになったから	40.0%
日記を書くとき、自分の気持ちを考えるようになったから	36.7%
自分に自信がついたから	34.4%
日記を書くとき気持ちが落ち着いたから	26.7%
日記を書いていたので他の文章を書くことも楽になったから	21.1%
日記を書くことが楽しかったから	20.0%
日記を書くので良いことに目が向くようになったから	20.0%

##### (2) 教員アンケート(抜粋)

問2 「6年連用日記」が、有意義と思う理由

児童にとって6年間の思い出になる	100.0%
児童自身が自分の成長を感じている	87.5%
前に書いたことを見ることを楽しんでいる	87.5%
他者との比較でなく自分の成長を感じている	35.0%
日記を書くことを楽しんでいる	28.0%
書字が上手になる	25.0%
文章を書くことが、上手になる	25.0%
肯定的なことに目が向くようになる	22.5%
自分の気持ちに目が向く(メタ認知力)	22.5%
気持ちが、前向き、ポジティブになる	22.5%
学校の伝統や特色として誇りに思う	19.5%
自分に自信がつく	14.0%
気持ちが落ち着く	12.5%

・教員の自由記述からは、「周りとは比べるのではなく、過去の自分の姿から今の自分の成長を自然と感じられるところがこの日記のよさだと思います。」という意見の一方、時間確保の困難さを指摘する意見があった。

## 5 成果と課題

### (1) 実践の成果

#### ①他者との比較ではなく、「過去の自分」から「今の自分」の成長に気付かせる教育効果

児童アンケートでは、91.0%の児童が、「6年連用日記」をつけて良かったと肯定的に回答し、その理由として、68.7%の児童が、「日記を書いて自分の成長を感じられた」と回答している。その中には、特別支援教室に通級する児童も含まれていた。教師アンケートでは、「6年連用日記」が有意義である理由として、87.5%の教師が、「児童自身が、自分の成長を感じている」と回答し、35.0%の教師が、児童が「他者との比較でなく自分の成長を感じている」と回答している。

また、児童アンケートでは、76.7%の児童が、「前の学年で書いたことを見るのが楽しかったから」と回答し、47.8%の児童が、「前の学年で書いたことを見ると元気が出るときがあった」と回答している。教師アンケートでも、87.5%の教師が、「(児童は)前に書いたことを見ることを楽しんでいる」と回答している。「過去の自分」との出会いを楽しいと感じられるのは、「今の自分」が、「過去の自分」を慈しむことができるほどに成長したことを実感できるからに他ならないと考える。

以上のことから、「6年連用日記」は、他者との比較ではなく、「過去の自分」から「今の自分」を振り返り、自らの成長に気付かせる教育効果があったと考える。

#### ②「今の自分」を肯定的に振り返り、「未来の自分」への希望を育む教育効果

児童アンケートでは、40.4%の児童が、「ポジティブに考えるようになった」と回答し、34.4%の児童が、「自分に自信がついた」と回答した。児童の自由記述は、100人中95人の児童が記入し、その内の28.4%にこれからの自身の成長に言及した記述が見られ、15.8%に前向きな心の動き(楽しみ・レジリエンス・ポジティブ等)に関する記述が見られた。教師アンケートでは、22.5%の教師が、「6年連用日記」をつけることにより「肯定的なことに目が向くようになる」、「気持ちが、前向き、ポジティブになる」と回答した。

令和3年度「全国学力・学習状況調査」(質問紙調査)では、「自分には良いところがあると思いますか。」に対する肯定的な回答が、最も顕著に良好な変容が見られた。

以上のことから、「6年連用日記」は、「未来の自分」への希望を育む教育効果があると考える。

### (2) 今後の課題

コロナ禍の中、教育活動の精選は、学校にとって不可避な課題である。「6年連用日記」が、継続的に実践されるためには、児童・保護者・学校が、その意義を共通認識するプロセスを大切にし、定期的にその意義を再確認することが、最も大切な課題となる。

- 6 文献 Rosenberg, M. (1965). *Society and adolescent self-image*. Princeton University Press.